

会議録

会議名	令和7年度スポーツによるまちづくり推進委員会（第2回）	
開催日時	令和7年11月26日（水） 18時30分～20時00分	
開催場所	市民館2階 会議室1・2	
出席者	平中 政明、藤井 真澄、岩間 英昭、林 絹江、 高来 英行、服部 正美、宮川 力雄、戸坂 緑、 宇野 直士、宇家 宏治、富田 輝美	委員数 14人 出席者数 11人 欠席者数 3人
欠席者	篠原 由紀恵、中尾 恒一朗、西村 裕文	
事務担当課 及び職員	協創部文化スポーツ推進課 文化スポーツ推進課：原田課長、桑原主幹、田島係長、吹金原	
会議次第	1 報告事項 アンケート結果について 2 議題 第二次山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画 3 その他 次回会議予定について	
事務局	次第1 報告事項（アンケート結果について） 令和7年9月から10月にかけて行った「山陽小野田市スポーツによるまちづくりアンケート」の結果をもとに説明。 次第2 議題 第二次山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画素案について 資料に沿って章ごとに説明。	
事務局	<u>第1章 計画改訂の基本的な考え方</u> 質問なし	
事務局	<u>第2章 スポーツをとりまく環境の変化</u>	
委員	熱中症対策には水分補給だけでなく、食事のコントロールがうまくできていないという要因もあるのではないかと思う。	
事務局	第5章の施策推進のための取組で一部触れるところであるが、スマイルエイジングや健康増進に関わる部分で、委員が言わされた要因もあると認識している。	
事務局	<u>第3章 本市のスポーツの現状</u>	

委員	アンケートの回答率は30%程度と低いように思うが、この回答率で本当に正確なアンケートの結果が得られるのか。
事務局	第一次計画策定時に行ったアンケートの回答率は30%程度であったことから、今回のアンケートにおいても30%程度の回答率を想定して、何人を対象にアンケートを行えば信頼度の高い回答数が得られるかを計算したところ、1300人を対象にアンケートを実施すれば信頼度を充足できるという結果となった。今回のアンケートの回答率は想定通りとなったことから、アンケートの精度については問題ないと考えている。
事務局	<u>第4章 計画の基本理念</u>
委員	基本目標の「週1回以上スポーツ（ウォーキング等の軽運動を含む）を行う人の割合」について国第3期スポーツ基本計画では70%を目標としているが、市では65%以上としているのは何か根拠があるか。
事務局	第一次計画策定時の基本目標は「週1回以上スポーツ（ウォーキング等の軽運動を含む）を行う人の割合」を30%以上から50%以上にするという目標を掲げていた。健康増進課が行った「令和6年度健康に関する市民アンケート」に同様の設問があり、その結果は61%という結果であった。このことから、65%以上という目標としている。
事務局	<u>第5章 施策推進のための取組</u>
委員	予算がない中で施設の統廃合について検討することは賛成であるが、近隣市ではスケボーやBMXができるアーバンスポーツ施設ができる。おのサンサッカーパークの駐車場でもスケボーをやっている子供を見かける。駐車場でやっているので、車との接触等が気にかかるところであるので、市内に1か所でもそのような施設があれば、そこに行ってみてはどうかとスケボーをする子供たちに提案できる。時代が変わっているので、その辺りも検討していただきたい。
事務局	施設の統廃合については、人口減少や少子高齢化などの社会情勢と、各施設に対する市民の皆様からの愛着等も考慮しながら慎重に検討していきたい。また、アーバンスポーツについては、アーバンスポーツができる施設が近隣市にあるということは承知している。こちらについては、スポーツ施設として考えていくのか、または都市公園のようなものとして考えるのかということを含めて、今後の課題として受け止めたい。

委員	基本目標のところで、具体的にどこの層をターゲットに令和12年度までに4%向上させようと考えているか。
事務局	アンケート結果からも60代、70代以上の世代は、ウォーキング等も含めて週1回以上スポーツを実施している割合が高い。一方で、30から50代の働き世代では、この割合が伸びていない。この理由として、スポーツをする時間的余裕がないという方が多くいる。このような方に、スポーツを身近に感じてもらう、スポーツをやってみようと思っていただく施策や情報発信が必要だと考えている。
委員	子供や中学生に対する施策は具体的な取り組む方向性が示されているが、30代、50代への取り組む方向性は、ぼんやりとしている印象を受けた。この世代で、時間的な障壁をどのように解消していくかというのは大きな問題ではあるが、策の一つとして、企業との連携をやっていかないといけないというのは感じている。人財の育成とも連動するが、企業に協力をいただいて、人財の一人としてクラブのスタッフや指導者として力を発揮していただくことでも、スポーツの実施率向上に寄与できると思っている。
事務局	働き世代の時間的な障壁については、スポーツ施策というところよりは、働き方改革や子育てに起因する部分が多くあると思うので、取り組む方向性として盛り込みにくいが意見として受け止めたい。
事務局	第6章 計画の推進体制と進捗管理
委員	進捗管理について、毎年のアンケートは行わず、最初と最後でアンケートを実施するというような手法になるのか。
事務局	進捗管理については、市の実施計画の中の事務事業調書というものがあり、本計画の各章に紐づく施策を事務事業調書に基づき展開している。事務事業調書に示すKPIがあるので、その達成状況等を委員の皆様に確認いただきながら進捗管理していただく。 また、本課としてアンケートを毎年行うということは、予算の関係上難しい。 来年度の本委員会においては、施設の統廃合に踏み込んで御検討いただき、施設の集約や集約に基づく施設の縮充といった部分を委員の皆様に御意見いただきながら取り組んでいきたい。
委員長	全体を通しての質問はあるか。

委員	第一次計画の基本目標にあつたスポーツボランティアの登録数は、達成したのか。
事務局	達成していない。
委員	第二次計画において、基本目標から削除した理由はあるのか。
事務局	国等の上位計画の目標に掲げられているところではあるが、本市の行事等でスポーツボランティアの皆様に声掛けをするということがないというのが現状であり、市のスポーツ施策に直結するところではないと考え、削除している。
委員	スポーツボランティアに登録したという意識を持つことができれば、もう少し市のいろいろなスポーツ関係のイベント等に参加してくれるのではないか。
事務局	市でスポーツイベントを開催した際に、ボランティア募集の周知を行ったこともあるが、ボランティア参加していただいた方はほとんどいないという現状もあり、市のスポーツ施策とは別のものと考えている。
委員	総合型地域スポーツクラブの立ち上げを検討されているところはあるか。
事務局	令和6年度に竜王地域で総合型地域スポーツクラブの立ち上げを検討したが、クラブマネージャー資格の保有者や事務局を担っていただく方といったキーパーソンが不足しており、立ち上げに至らなかった。 しかし、立ち上げの検討に関わった方々は既存クラブへ参加され、結果としては既存クラブの機能強化という形になった。
次第3 その他	
事務局	今後の予定について、議題で委員の皆様にお諮りした内容で本素案に大きな修正点等がないことから、本素案を計画案として今後の手続きを進めさせていただく。今後の予定としては、本計画案を市で調整を図ったのち、市民の方から広く意見をいただくため、年明けにパブリックコメントを実施させていただく。パブリックコメントでの意見を集約、反映したのちに、2月または3月に委員会を開催させていただく。

～終了～